

# 検討の観点と内容の特色

## 検討の観点

## 内容の特色

### 1 教科目標・学習指導要領への対応

教育基本法・学校教育法に則った内容になっているか。

- 教育基本法の理念および学校教育法の規定に則って、国語の基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力を養い、我が国の伝統的な言語文化を享受し継承する態度、豊かな人間性と社会性を育むように、さまざまな工夫と配慮がなされている。

学習指導要領に示された内容に対応しているか。

- 学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の指導事項と言語活動例、および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、本編・基礎編・資料編の3部構成のうち本編で網羅されている。(基礎編・資料編には、本編の学びを深めたり広げたりすることのできる学習材が収められている。)

生徒が学習の見通しと関心・意欲を持って、主体的に学習に取り組めるように工夫されているか。

- 各学年巻頭の折り込みに、国語学習の意義と進め方、1年間の見通しが、生徒にも分かりやすく示されている。また、巻末の「言葉の力 一覧」を用いて、3年間の学習を見通したり振り返ったりすることができる。
- 各学習材には、学習のねらいや進め方が分かりやすく示されており、生徒が主体的に学習に取り組める。
- 個性豊かなキャラクターとともに学習を進めていくスタイルの採用や、ゲーム仕立ての文法学習材など、生徒の学習意欲を高めるような工夫が随所に見られる。

基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得できるように工夫されているか。

- それぞれの学習材で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として、生徒にも分かりやすい表現で明確に示されている。
- 「言葉の力」は、学年内で習得と活用を繰り返しながら、3年間で系統的に積み上がるように配列されており、知識・技能を螺旋的に学んでいくことができる。

思考力・判断力・表現力が育まれるように工夫されているか。

- 習得した「言葉の力」を言語活動の中で活用することを通して、思考力・判断力・表現力を高められるようになっている。
- 「学びの扉／学びを支える言葉の力」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域に共通して必要となる基礎的な「言葉の力」を掘り下げて鍛えることができる。これによって、思考力・判断力・表現力の基礎を養うことができる。

アクティブ・ラーニングの視点を含め、言語活動が充実しているか。

- 各領域とも、日常生活・社会生活につながり、生徒が主体的・協働的に取り組める、多彩な言語活動が用意されている。さまざまな読み比べをはじめ、生徒の思考と生徒間の交流を促す、課題解決的な内容が充実している。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習材では、活動過程の具体例や完成作品例が多数示されているなど、生徒の多様な思考・表現を支援する配慮がなされている。
- 「読むこと」の学習材では、「てびき」に学習目標(指導事項に対応した目標)とともに言語活動の目標が示されており、取り組むべき活動内容が明確である。

実生活で生きて働き、各教科の学習の基本ともなる資質・能力が身につくように工夫されているか。

- 各学習材の「言葉の力」や言語活動は、国語に加えて他教科のさまざまな学習や、実生活のさまざまな場面で生かせる、具体的な知識や手順・形式となっている。
- 「学びの扉／学びを支える言葉の力」では、国語の学びに通底する基礎的な力を鍛え、他教科の学習や実生活での言語活動を支える資質・能力を養うことができる。

国語科の今日的課題に応える内容になっているか。また、学力向上への取り組みは十分か。

- 次のように、PISA 調査や全国学力調査で求められる力を育む工夫が豊富である。
  - \* 各領域において、文章や談話を吟味し評価することや、自分の考えを持ち論理的に表現すること、互いの立場や考えを尊重して話し合うことが重視されている。
  - \* 内容や形式について読み比べのできる文章が数多く掲載されている。
  - \* 図表（非連続型テキスト）を多く用いた文章や、図表を使って表現する学習材が豊富に用意されている。
  - \* 「広がる言葉／言葉を広げよう」など、生徒の語彙を豊かにする学習材が設けられている。

伝統的な言語文化を尊重し継承する態度を養えるように工夫されているか。

- 我が国で長く読み継がれてきた優れた古典作品が、多くの美しい写真資料とともに掲載されており、伝統的な言語文化を尊重し継承する態度を養える。
- 近代文学と近代詩の名作が全学年に掲載されている。
- 各学年巻頭の口絵に四季折々の言葉や詩歌が掲載されているなど、豊かな日本語に触れる機会が多く設けられている。

豊かな人間性と社会性を育めるような題材の選択がなされているか。

- 定評ある文学作品に加えて、現代の優れた書き手による新鮮な作品も各学年に掲載されており、想像力や共感する心を育てていくことができる。
- 平和、安全・防災、人権・福祉、郷土への思い、国際理解・国際協調、環境、食育、キャリア教育、メディアリテラシーなど、さまざまな今日的課題が取り上げられており、生徒の視野を広げ、社会の問題と向き合う姿勢を育むことができる。

## 2 構成・配列

各領域等の能力が偏りなく育成できる構成になっているか。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習材がバランスよく配列されており、各領域の能力を偏りなく育成することができる。

各領域の学習内容の系統性・段階性が図られているか。また、領域間の関連が図られているか。

- 各領域とも3学年を通した系統性・段階性をもって学習目標が立てられ、学習材および「言葉の力」が配列されている。
- 習得した知識・技能が繰り返し活用できるように、各領域の学習材や「学びの扉／学びを支える言葉の力」が配列されており、領域間の関連が図られている。

適宜学習を振り返ったり、深めたりするなど、個に応じた学習ができるか。

- 本編・基礎編・資料編の3部構成になっており、基礎編および資料編では、本編で学んだことを振り返ったり、理解したことを深めたり、より進んだ学習をしたりすることができる。そのため、学校や生徒の実情に応じて無理なく柔軟に扱える。
- 資料編「学習用語一覧」で、学習事項の確認ができるようになっている。

2学期制への配慮がなされているか。

- 3学期制でも2学期制でも、各学期において各領域等の学習・指導と評価がバランスよく行われるように、学習材が配列されている。

### 3 内容の取り扱い [ 話すこと・聞くこと ]

学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、領域の授業時数が十分に確保されているか。

- 各学年に、大学習材2本と小学習材1本が系統立てて配列されている。学習材ごとに、重点的に扱う指導事項に基づく1～2本の学習目標が明示され、学年を通して全ての指導事項が扱えるようになっている。
- 学習材は〈聞く〉〈話す〉〈話し合う〉の3系統から成っており、それぞれ次のようなねらいを持っている。
  - \* 〈聞く〉…話の内容を聞き取り、自分の考えの形成に生かすことを学ぶ。
  - \* 〈話す〉…目的や相手、場を意識して、分かりやすく説得力をもって話すことを学ぶ。
  - \* 〈話し合う〉…目的に沿って、実りある話し合いをすることを学ぶ。
- 〈話す〉〈話し合う〉系統は、手順を踏んで比較的大きな言語活動を行う大学習材、〈聞く〉系統は、技能練習を中心に短時間で扱える小学習材となっている。
- 「話すこと・聞くこと」の学習材の授業時数として、1・2年で15時間、3年で11時間が配当され、学習指導要領に配慮事項として示された時数を満たしている。

学習指導要領に示された言語活動例が十分に扱えるようになっているか。

- 各学年3系統の「話すこと・聞くこと」の学習材において言語活動例が網羅されている。例えば、次のような学習材で扱われている。
  - \* 1年言語活動例ア（相手の話に対する質問）…〈聞く〉系統「会話が弾む質問をしよう」
  - \* 2年言語活動例イ（討論）…〈話し合う〉系統「話し合いで問題を検討しよう」
  - \* 3年言語活動例ア（場の条件に合わせたスピーチ）…〈話す〉系統「場面に応じて話そう」

生徒の発達段階に即した題材を取り上げているか。

- 言語活動を行うための題材として、生徒の興味・関心を喚起し、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。
  - \* 1年…ことわざを紹介するスピーチ、言葉に関するグループディスカッションなど
  - \* 2年…提案型のプレゼンテーション、リンクマップを用いた話し合いなど
  - \* 3年…場の条件に合わせたスピーチ、投書の内容について話し合うチャート式討論など

知識・技能の着実な習得と活用のために、学習材の構成などが工夫されているか。

- それぞれの学習材で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として明示されている。「言葉の力」は、指導事項に基づきつつ、実際の言語活動の場面に即した具体的な内容となっている。しかも、特定の学習材だけでなく、他の学習材や日常生活・社会生活の場面でも生かせる汎用性を備えたものとなっている。
- 大学習材では、言語活動の手順が丁寧に示されており、その活動に取り組む中で、知識・技能を習得・活用して思考力・表現力・判断力を養うという構成になっている。最後に、学習の成果を振り返ることができるように、自己評価の観点が示されている。
- 小学習材は3ページに収められ、短時間で力をつけられるようになっている。繰り返し練習できるように、ウェブページや教師用指導書に聞き取り用の音声学習材(デジタルコンテンツ)も用意されている。
- 「学びの扉／学びを支える言葉の力」で習得した知識・技能が、「話すこと・聞くこと」の学習材の中で活用できるように構成が工夫されている。
- 資料編には、「発想・整理の方法」「取材の仕方」「話し合いの方法」など、本編の学習で生かすことのできる「話すこと・聞くこと」の知識が精選されて掲載されている。

## 4 内容の取り扱い [ 書くこと ]

学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、領域の授業時数が十分に確保されているか。

- 各学年に、大学習材3本と小学習材3本（3年では1本）が系統立てて配列されている。学習材ごとに、重点的に扱う指導事項に基づく1～3本の学習目標が明示され、学年を通して全ての指導事項が扱えるようになっている。
- 手順を踏んで比較的大きな言語活動を行う大学習材は、〈伝達〉〈論証・説得〉〈感性・創造〉の3系統から成っており、それぞれ次のようなねらいを持っている。
  - \* 〈伝達〉…目的に沿って分かりやすく的確に伝えるための文章の書き方を学ぶ。
  - \* 〈論証・説得〉…論理的で説得力のある文章の書き方を学ぶ。
  - \* 〈感性・創造〉…想像力を生かした豊かな文章の書き方を学ぶ。
- 技能練習を中心に短時間で扱える小学習材は、〈詩歌創作〉〈通信・手紙〉〈情報発信〉の3系統から成っており、それぞれ次のようなねらいを持っている。
  - \* 〈詩歌創作〉…詩・短歌・俳句の創作を学ぶ。
  - \* 〈通信・手紙〉…手紙などの書き方を学ぶ。（1・2年のみ）
  - \* 〈情報発信〉…適切で効果的な情報発信の仕方を学ぶ。（1・2年のみ）
- 「書くこと」の学習材の授業時数として、1・2年で30時間、3年で20時間が配当され、学習指導要領に配慮事項として示された時数を満たしている。

学習指導要領に示された言語活動例が十分に扱えるようになっているか。

- 各学年6系統（3年は4系統）の「書くこと」の学習材において言語活動例が網羅されている。例えば、次のような学習材で扱われている。
  - \* 1年言語活動例イ（図表を用いた文章）…〈情報発信〉系統「学校新聞の記事を書こう」
  - \* 2年言語活動例ア（物語の創作）…〈感性・創造〉系統「いきいきと描き出そう」
  - \* 3年言語活動例ア（批評文）…〈論証・説得〉系統「観察・分析して論じよう」

生徒の発達段階に即した題材を取り上げているか。

- 言語活動を行うための題材として、生徒の興味・関心を喚起し、日常生活・社会生活に関わるものが取り上げられている。
  - \* 1年…自分についての説明文、物語の挿絵についての意見文、歌の鑑賞文など
  - \* 2年…食文化に関するレポート、職場体験の依頼状、短歌から想像を広げた物語など
  - \* 3年…環境に関するミニ雑誌の編集、ポスターについての批評文など

知識・技能の着実な習得と活用のために、学習材の構成などが工夫されているか。

- それぞれの学習材で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として明示されている。「言葉の力」は、指導事項に基づきつつ、実際の言語活動の場面に即した具体的な内容となっている。しかも、特定の学習材だけでなく、他の学習材や日常生活・社会生活の場面でも生かせる汎用性を備えたものとなっている。
- 大学習材では、言語活動の手順が丁寧に示されており、その活動に取り組む中で、知識・技能を習得・活用して思考力・表現力・判断力を養うという構成になっている。最後に、学習の成果を振り返ることができるように、自己評価の観点が表示されている。
- 小学習材は2～3ページに収められ、短時間で力をつけられるようになっている。
- 「学びの扉／学びを支える言葉の力」で習得した知識・技能が、「書くこと」の学習材の中で活用できるように構成が工夫されている。
- 資料編には、「原稿用紙の使い方」「手紙の書き方」「レポートの書き方」など、本編の学習で生かすことのできる「書くこと」の知識が精選されて掲載されている。

## 5 内容の取り扱い [ 読むこと ]

学習指導要領に示された指導事項が系統的に押さえられ、領域の授業時数が十分に確保されているか。

- 各学年とも、「読むこと」の学習材が、「古典」を別として大きく6系統に分けて配列されている。更に、「読書」と「詩」の学習材も、それぞれ学年に3か所ずつ掲載されている。学習材ごとに、重点的に扱う指導事項に基づく1～2本の学習目標が明示され、学年を通して全ての指導事項が扱えるようになっている。
- 文学を中心とした系統として、〈言語感覚〉〈文学一〉〈文学二〉の3系統がある。定評のある作品に加えて、現代の優れた書き手による、中学生の感性に合った新鮮な作品も掲載されている。各系統は、次のようなねらいを持っている。
  - \* 〈言語感覚〉…言葉に関する随筆と、詩・短歌・俳句の鑑賞文を読み、言語感覚を磨く。
  - \* 〈文学一〉…同じ学習目標のもと、短め・長めの2作品を読み、読み解く力を養う。
  - \* 〈文学二〉…〈文学一〉系統での学びを生かし、手応えのある作品を読み深める。
- 説明・論説文を中心とした系統として、〈構成・展開〉〈吟味・判断〉〈言葉とメディア〉の3系統がある。掲載作品のほとんどが書き下ろして、学習目標に合致した文章となっている。各系統は、次のようなねらいを持っている。
  - \* 〈構成・展開〉…論理的な文章の構成・展開を捉え、内容について理解を深める。
  - \* 〈吟味・判断〉…文章の論理について吟味・判断し、自分の考えを持つ力を育てる。
  - \* 〈言葉とメディア〉…メディアの役割について学び、メディアリテラシーを養成する。
- 「読書」の学習材は、夏休み前・冬休み前・春休み前の3か所に掲載されている。初めの2か所では、〈戦争・平和〉〈日本文化〉などテーマ別に作品が選ばれている。最後の1か所には、近代文学の名作（芥川・漱石・鷗外の作品）が掲載されている。
- 「詩」の学習材には〈巻頭詩〉〈日本語のしらべ〉〈詩の言葉〉の3系統があり、音読に適した爽やかな詩、日本語のリズムや響きを味わう近代の名詩、内容をじっくりと読み深めたい詩が掲載されている。
- 「読むこと」の授業時数として、1年で53時間、2年で54時間、3年で48時間が配当され、十分な時間確保への配慮がなされている。

学習指導要領に示された言語活動例が十分に扱えるようになっているか。

- 各学年の「読むこと」の学習材において言語活動例が網羅され、適宜、繰り返し取り上げられている。例えば、次のような学習材で扱われている。
  - \* 1年言語活動例イ（図表との関連を考えて読む）…「スズメは本当に減っているか」など
  - \* 2年言語活動例ウ（新聞の情報比較）…「『正しい』言葉は信じられるか」など
  - \* 3年言語活動例ア（物語や小説を批評する）…「形」など

視野を広げ、豊かな人間性を養うことに資するよう、多様な題材を取り上げているか。

- 学習指導要領に配慮事項として示された8観点に沿って、多様な題材で発達段階に即した学習材が取り上げられている。例えば、次のようなものが掲載されている。
  - \* 観点ア（国語に対する認識）…3年「二つのアザミ」など
  - \* 観点イ（想像力や言語感覚）…1年「詩の心——発見の喜び」など
  - \* 観点ウ（公正な判断力や創造的精神）…1年「ニュースの見方を考えよう」など
  - \* 観点エ（科学的な見方や広い視野）…1年「スズメは本当に減っているか」など
  - \* 観点オ（豊かな人間性やたくましく生きる意志）…2年「卒業ホームラン」など
  - \* 観点カ（人間や社会について考えを深める）…3年「何のために『働く』のか」など
  - \* 観点キ（伝統と文化への理解）…2年「鰯節——世界に誇る伝統食」など
  - \* 観点ク（国際理解や国際協調）…3年「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」など



「読むこと」の基礎・基本を着実に身につけるために、学習の手引きなどが工夫されているか。

- 「読むこと」の学習材末尾に「てびき」が提示されている。「てびき」は、指導事項の「語句の意味の理解」「文章の解釈」と「自分の考えの形成」に対応させて、「読み取る」設問と「考えを深める」設問の2段階に分けて示されている。順を追って取り組むことで、文章の理解と読み深めが無理なく行えるようになっている。
- それぞれの学習材で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として明示されている。「言葉の力」は、指導事項に基づきつつ、実際の学習材に即した具体的な内容となっている。しかも、特定の学習材だけでなく、他の学習材や、日常生活・社会生活で接する文章にも生かせる汎用性を備えたものとなっている。
- 「言葉の力」は「てびき」の最後に示されており、学習の振り返りに用いることもできる。
- 「読むこと」の学習材で習得した「言葉の力」の内容を、「学びの扉／学びを支える言葉の力」で、更に詳しく学び、理解を深めることができるようになっている。
- 資料編には、本編の学習材と関連して読み比べや読み広げのできる学習材が掲載されている。

生徒の読書生活を豊かにするための手立てが十分に用意されているか。

- 各学年3か所の「読書」の学習材に、読書案内が付されている。読書案内は、テーマ別で読み比べや読み広げを促すもの、近代文学の名作を紹介するものなどが用意されており、生徒の多様な興味に応じられるように配慮されている。また、「読むこと」の学習材の脚注欄や資料編などにも読書案内が付されており、3学年で合計305冊の本が紹介されている。
- 各学年とも、資料編に読書活動が紹介されており、読書生活の充実が図られている。

## 6 内容の取り扱い [ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ]

「伝統的な言語文化に関する事項」が十分に扱えるようになっているか。また、伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度の育成にふさわしい学習材が選定されているか。

- 各学年の「古典」の学習材において、「伝統的な言語文化に関する事項」が網羅され、適宜、繰り返し取り上げられている。
- 「伝統的な言語文化に関する事項」に沿って、中学校で触れておきたい古典作品が、種類（ジャンル）や内容、成立年代のバランスを考慮して取り上げられている。各学年とも、3～4本の「古典」の学習材が、作品や作者の解説とともに掲載されている。
- 中学校1年の「古典」の最初には、特設学習材「古典の世界」が配置され、生徒にとって身近な猫を題材に、中学校での古典学習へといざなう工夫がなされている。

小学校での古典学習を踏まえて、より深めた学習ができるように工夫されているか。

- 小学校で、音読などを通して主な古典作品の冒頭に触れることを踏まえて、中学校では、同じ作品であっても長めに掲載されており、内容を読み取ったり考えを深めたりすることに、より重点が置かれている。
- 各学年とも折り込みを用いるなどして、古典作品のあらすじや歴史的背景などが、色彩豊かな絵巻や資料性の高い図版とともに紹介されており、より深く古典の世界を理解し、鑑賞することができるようになっている。
- 資料編には、本編での古典学習を広げたり深めたりすることのできる学習材が掲載されている。1年の資料編には、本編で取り上げていない代表的な古典作品の抜粋が、2・3年の資料編には、本編の古典作品に関連した解説文・鑑賞文が掲載されている。後者については、併せて読むことで、本編の作品をより深く味わえる。

「国語の特質に関する事項」が系統的に扱えるようになっていないか。

- 「読むこと」の学習材の脚注欄に、学びたい重要な語句が取り立てて示されている。
- 「読むこと」の学習材末尾の「広がる言葉」で、文章中の表現と関連させて語彙を豊かにすることができる。更に、資料編「言葉を広げよう」では、3学年で1412もの言葉が全て例文付きで示されており、「書くこと」の学習にも生かせる。
- 「日本語探検」では、身近な具体例を取り上げながら、言葉についての知識が分かりやすく解説されている。
- 文法の学習材は、本編「文法の窓」と基礎編「文法解説」の2部構成になっている。前者では、学習の導入として、ゲーム感覚で楽しく学べる工夫がなされており、後者では、文法事項が体系的に整理され、詳しく解説されている。「文法解説」には練習問題が付いており、知識の定着を図ることができる。
- 「読むこと」および「言葉」の学習材では、漢字を効率よく、かつ系統的に学べるように、次のようなさまざまな工夫がなされている。
  - \* できるかぎり、「読むこと」の学習材の中で新出漢字が提出されており、文脈の中で漢字を学べるようになっていない。新出漢字は、脚注もしくは後注に大きく表示されており、語例も掲載されている。
  - \* 各学年4～5本ある「漢字道場」では、漢字の基礎知識を整理して学習しながら、新出漢字も学ぶことができる。
  - \* 1・2年の本編末には「小学校6年の漢字一覧」があり、小学校6年で学んだ漢字を復習できるようになっている。また、資料編には「新出漢字一覧」「新出音訓一覧」「常用漢字表」といった漢字資料が豊富に掲載されている。

## 7 学習への配慮

小学校の学習内容との関連が図られているか。

- 小学校の学習内容（学習指導要領に示されている指導事項および言語活動例）を踏まえて、中学校3年間の学習目標が立てられ、「言葉の力」と言語活動が設定されている。すなわち、学習指導要領に基づいて小中9年間の系統性が図られている。
- 小学校6年から中学校1年への学習の移行がスムーズに行えるように、特に1年の前半の学習材では難しい内容が避けられており、各領域にわたって小学校高学年の復習にもなるように配慮されている。
- 1年資料編に「学習を始める前に」が設けられており、「ノートの書き方」「情報の調べ方」など、国語学習を進めるための基本事項を適宜確かめることができる。

高校の学習内容との関連が図られているか。

- 3年の学習材には、高校への橋渡しにもなるよう、社会性のある題材や言語活動が多く設けられている。
- 2・3年には、高校の国語教科書に作品が多く採録される著作者の文章も掲載されており、文章の難易度としても高校とのスムーズな接続が図られている。
- 「古典」では、3年の資料編に簡単な文語文法の学習材が掲載されている。（文語文法は高校での学習内容であるため、発展的な学習の扱いとなる。）

他教科の学習や実生活との関連が図られているか。

- レポート、手紙、スピーチ、多様な話し合いなど、他教科の学習や実生活に生かせる内容が数多く扱われている。
- 社会、理科、技術・家庭、音楽、美術など、他教科に関連する題材が積極的に取り上げられている。

- 豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を育てる協働的な言語活動が豊富にそろっており、道徳との関連も図られている。
- 基礎編「学びを支える言葉の力」では、学んだことが国語の学習に加えて、実生活にどう生きていくのかが、「つながる・広がる」の囲みで具体的に示されている。

地域性への配慮がなされているか。

- 各領域の学習材の選定において、地域的な偏りが生じないように配慮されている。
- 「さんちき」「そこに僕はいた」（以上1年）「方言と共通語」（2年）などで、方言に関心と愛着が持てるようになっている。

さまざまな生徒にとって使いやすい教科書となるように、特別支援教育やユニバーサルデザインなどの配慮がなされているか。

- 特別支援教育の観点から、全ページにわたり、内容とデザインについて、専門家による検証・校閲がなされている。全ての生徒にとって、各部分の認識や重要な部分の判別がしやすいように工夫されている。
- カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり、配色とデザインについて、色覚に関する専門家による検証・校閲がなされている。生徒の色覚特性への配慮から、色以外の点できちんと識別ができるようになっている。
- 小学校で学習していない漢字には、学習材ごとの初出箇所に必ず振り仮名が付けられている。生徒の漢字への抵抗感を和らげ、漢字に読み慣れることができるように配慮されている。
- 本文書体に、小学校の教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を近づけた、特別な明朝体が使われている。このため、生徒が読む文字と書く文字との違いで混乱することを避けられる。
- 1年の「読むこと」の学習材本文では、2・3年よりもひとまわり大きな活字が用いられており、発達段階への配慮がなされている。
- 脚注欄などの小さめの文字の振り仮名はゴシック体になっており、読みやすさへの配慮がなされている。

家庭学習・自学自習への配慮がなされているか。

- 基礎編と資料編に、本編での学びをより確かなものにできる学習材や、本編で学んだことを生かして取り組める学習材が多数用意されており、家庭での学習にも活用できる。自学自習もできるように、表現も丁寧で分かりやすいものになっている。
- 各学年巻頭の折り込みに示された「学習の進め方・教科書の使い方」の中で、家庭でも扱うことができる学習内容にマークが付けられている。

情報活用・ICT活用に対する工夫がなされているか。

- 「読むこと」領域では全学年に〈言葉とメディア〉の系統が、「書くこと」領域では1・2年に〈情報発信〉の系統が設けられており、メディアリテラシーについて深く学ぶことができるようになっている。
- 1年資料編「学習を始める前に」の中の「情報の調べ方」には、本やインターネット、新聞を用いた情報活用の仕方が、分かりやすくまとめられている。
- デジタルコンテンツを利用することが効果的な学習材には、そのことを示すマークが付けられており、ウェブページなどで提供される音声や映像の資料が活用できる。

印刷・製本は適切か。

- 文字組みは読みやすく、イラストや写真も美しく鮮明に印刷されている。
- 再生紙および植物油インキが用いられており、環境への配慮がなされている。
- 製本は堅牢であり、十分な耐久性がある。